

無人自動運転等の先進MaaS実装 加速化推進事業

令和3年度予算額 **57.2億円（新規）**

事業の内容

事業目的・概要

- 環境・エネルギー制約への対応の観点から、我が国のCO2排出量の約2割を占める運輸部門において、先進的なMaaS（※）の普及によりモビリティサービスを効率化し、省エネルギーを寄与することが期待されています。

※MaaS: Mobility as a Service (IoTやAIを活用した新しいモビリティサービス)

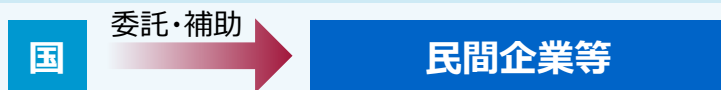
- 一方で、無人自動運転サービスを始めとする先進MaaSの社会実装に向けては、異業種との連携による事業採算性向上、無人自動運転の運行形態や走行エリアの拡大等の事業環境・技術面での課題があります。

- 本事業では、関係省庁とも連携し、各種関連データを統合したモビリティデータ基盤の構築等の新たなスマートモビリティサービスの事業環境の整備や、遠隔監視のみの自動運転の実現など無人自動運転サービスの社会実装の推進、シミュレーションによる安全性評価・設計手法の技術開発などを行います。

成果目標

- 令和3年度～令和7年度の5年間の事業であり、先進MaaSのビジネスモデルや自動運転の安全性評価手法を確立し、40以上の地域で無人自動運転サービスを実装します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

①新スマートモビリティサービスの事業環境の整備

物流、買物、医療・健康等の課題解決を図る先進的なサービス実証を実施しビジネスモデルを構築するとともに、人流・物流・クルマにとどまらず、まち・インフラのデータを統合したモビリティデータ基盤を構築し、異業種とのデータ連携方式を確立することで、新たなモビリティサービスの事業環境整備を推進します。

②無人自動運転サービスの社会実装の推進

遠隔監視技術により1名の監視者が3台以上の車両の運行管理を行う、歩行者・車両が混在する地域で道路上の情報等を活用し安全かつ円滑な自動運転を実現するといった無人自動運転サービス実証を行い、無人自動運転の運行形態や走行可能エリアの拡大を推進します。

③シミュレーションによる安全性評価・設計手法の開発

体系化された交通流シナリオやシミュレーション等を活用した説明性の高い車両安全性評価手法や統合制御半導体等の機能シミュレーションによる設計・すりあわせを可能とする基盤モデルを開発し、自動走行車の基盤となる技術標準に関する国際的な議論を主導します。

②無人自動運転サービス



①新スマートモビリティサービス



③安全性評価・設計手法の開発